令和６年４月５日

令和５年度函館大谷高等学校関係者評価報告書

- 函館大谷高等学校関係者評価委員
  - 森　　博 人（函館大谷高等学校 PTA 会長）
  - 川 村　 夕 季（函館大谷高等学校 PTA 副会長）
  - 山本　みゆき（函館大谷高等学校 PTA 副会長）
  - 成田　佳寿子（函館大谷高等学校 PTA 副会長）
  - 竹田　まゆみ（函館大谷高等学校 PTA 副会長）
  - 北 村　 雄 治（函館大谷高等学校 PTA 副会長）
  - 北 山　 和 治（函館大谷高等学校 PTA 副会長）
  - 小 野　貴 彦（函館大谷高等学校 PTA 副会長）
  - 伊 藤　 美 穂（函館大谷高等学校 PTA 会　計）
  - 斎 藤　 幸 恵（函館大谷高等学校 PTA 会計監査）
  - 長 田　　望（函館大谷高等学校 PTA 会計監査）
  - 和 泉　 明 大（函館大谷高等学校 PTA 事務局長）
- 評価方法

  文部科学省の定める「学校評価ガイドライン」に基づき、関係者による自己評価の検証をおこなうべく PTA 役員を評価委員として構成した。評価に際しては令和４年度卒業学年の保護者計 97 名に自己点検評価報告書を示したアンケートを実施し、資料とした。なお、アンケートは令和５年３月８日から令和５年３月 13 日にオンラインフォームにて実施し、送信数 97 に対して 51 の回答を得た（回答率 52%）

1.　建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標

自己点検評価報告書（以下、自己報告）では「明治時代、六つの宗旨・宗派からなる函館六和講寺院が互いに宗旨や宗派を超えて、本来の和合僧に立ち返って共同教育事業を起こしたことに始まる学校」にとって「建学の精神・学園訓は「大谷高校」として最も大切なものであり、具体的な生活で起こる人間の問題を深めていくための指針であると考えている。」と記されている。学校評価アンケート（以下、アンケート）では 76%の保護者が建学の精神、学園訓および教育目標について「知っていた」と回答している。自己報告Ⅰ-2、Ⅰ-3、Ⅰ-5 の継続が求められる。また、「教育目標に掲げる「人間性・自主性・積極性・協調性」を育てる教育は行われましたか？」という設問に対し「充分におこなわれた」、「ある程度おこなわれた」との回答が 92%あり、自己報告Ⅰ-特に記される「あらゆる学校教育の中で、建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標を意識する中で日々の教育活動を行なうこと」の継続が求められる。

2.　分掌

(ア) 教育課程・学習指導（教務）

アンケートでは「学力レベルの把握と対策のための講習、学校生活満足度の把握と対策など、充実した支援はおこなわれましたか？」との設問に 90%が「充分おこなわれた」「ある程度おこなわれた」と回答しており、自己報告Ⅱ-4、Ⅱ-8 で記される「すべての生徒の学力をあげる」方針は一定の結果と理解を得ている。一方、8%が「あまりおこなわれなかった」との回答もあり、一人も取り残すことなく「すべての」生徒の学力を向上させるべく、より一層の取り組みが期待される。また、退学・転学等の数は少ないとはいえず、学力の向上と同様、一人も取り残すことなく「すべての」生徒が学び続けることを可能とする取り組みの継続が求められる。

(イ) 生徒指導・部活動

アンケートでは「生徒、保護者に誠実に向き合い、互いに認め合うことができる高い信頼関係は構築されたでしょうか？」との設問に対し、92%が「構築された」と回答している。自己報告Ⅱ-12 に記される「信頼関係を軸に生徒の認識を変えること」が生徒、保護者に対して浸透してきていることが読み取れる。また、部活動をはじめとする課外活動についても、ほぼ同数の評価がされており、取り組みの継続が求められる。

(ウ) 進路指導

経済的な事由から進学を諦める生徒を減らすべく、保護者向けのガイダンスの実施を検討するなど、学校が抱える事情を考慮したきめ細かな進路指導がおこなわれており、82%が「希望通りの進路を実現した」と回答したアンケートからも生徒、保護者の希望に沿う進路がある程度実現している。このことは、これから進路を実現する在校生の保護者にとっても現在の指導が有用であると判断できるので、生徒、保護者と教員および学校のより深いコミュニケーションを持続しながら継続を求めたい。

(エ) 保健管理・安全管理・個人情報管理/危機管理

年度当初に実施する保健調査において生徒の健康状態を把握し、情報共有を図ることをはじめ、細やかな対応と連携により、生徒の安全と健康を確保すべく努める様子が見て取れる。このことはアンケートにおける「コロナ禍における健康・安全について学校は適切なサポートをおこないましたか？」との設問に対し「 充分におこなわれた」「ある程度おこなわれた」との回答が 98%となったことからもうかがえる。

(オ) 入試・生徒募集

アンケートの設問「生徒が本校への入学を選択した理由」に約 1/3 が「部活動」と答えており、ほかの回答はその約 2/3 である。この割合は昨年度とは逆転しており、生徒募集の重要な要素であった「部活動」を土台に、それ以外の要素でも入学している。「学校の様子をきょうだいや先輩から聞いて」学校を選択したとの回答は実際に学校を経験した生徒が高い評価をしているということであり、この実態を効果的に PR することが生徒募集につながるものと考えられる。また、在校生、卒業生ともに「大谷にして良かった」と満足しているとの報告が多数あり、これらの生徒の実感を周知することが最大の PR になると思われる。

3. 管理運営/財務

自己報告Ⅲ、Ⅳから管理運営は適切になされ、財務は安定していることがうかがえる。また、それらはホームページ等に掲載することにより、情報公開がなされている。なお、アンケートでは「就学支援金等の公的支援の適切な活用に加え、所得に因る入学金の減免をはじめとする独自の支援など適切な経済的支援」がおこなわれたとの回答が 100%となっており、保護者への支援が届いており、保護者はそれを実感できていると思われる。

【総評】

評価委員の声を 2 例、紹介します。

- 3 年間大変お世話になりました。息子が 3 年間本当に楽しく通わせて頂きました。中学校では勉強面や先生との関わりで辛い思いをすることが多かった息子ですが、大谷高校と出会えて、心の底から日々楽しく過ごせていたようです。その息子の姿をみて、下の子も大谷高校に憧れを持っています。またもしかしたら今後もお世話になるかもしれません。 本当にありがとうございました。
- ウチの子は中学の時は人間関係を含め学校がつまらないという理由でほとんど不登校で成績もままならず不安いっぱいの受験で将来を悲観していたのですが、大谷高校に受け入れて頂けて、学校が楽しいと生徒会活動にまで参加し、たくさんの事を学んだようで精神的にも逞しくなり、諸先生方にも大谷高校にも心から感謝してます。 本当に有難うございました。

この声からも学校が「生徒に寄りそう教育」を実現している様がうかびます。様々な事情があってのこととは思いますが、今後はより多くの生徒にこれが届くことにより、退学、転学等で学校を離れる生徒が少なくなることを望みます。